

旭川市医師会女性医師部会研修会 子宮頸がんワクチンの普及に向けて

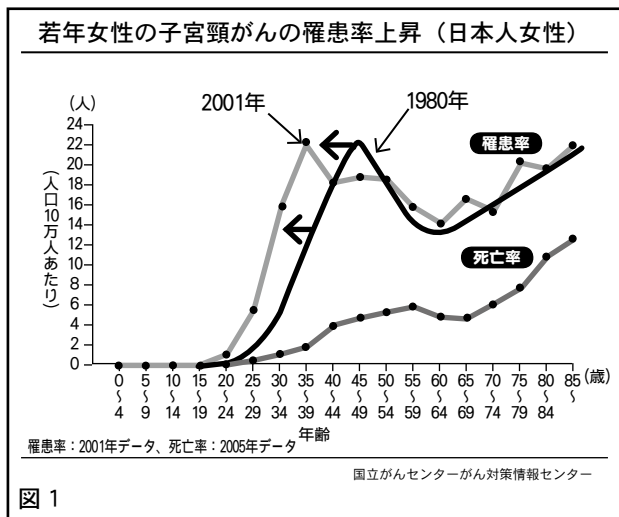
(2010年3月24日 トーヨーホテルにて)

旭川市医師会女性医師部会副部会長
長谷部 千登美
(医療法人社団慶友会吉田病院)

2010年3月24日に、今年度の女性医師部会研修会が開催されました。

今年度は、『子宮頸がんワクチンの普及に向けて』とのタイトルで、旭川医科大学産婦人科の田中育民先生からお話をうかがいました。田中先生は、婦人科の oncology をご専門とされており、特に最近若い女性によくみられるようになった子宮頸がんの予防・早期発見にご尽力されています。以下に、加藤先生のご講演の要旨をまとめてみました。

子宮頸がんの疫学として、日本における発症率は11.11人/10万人と諸外国に比べ比較的高い傾向があるといわれています。その発症率は1990年代から徐々に増加し、特に20代～30代の若い女性における発症率が著しく上昇していることが重要です (図1)。



この子宮頸がんの発症に深く関与するといわれているのがヒトパピローマウイルス (HPV) です。HPVの型には30種類以上ありますが、そのうち15種類程度が発癌に関与し、特に16型と18型の2種類が子宮頸がんの70%以上の症例に関与しているといわれています。HPVは非常にありふ

れたウイルスで、性交渉によって子宮頸部に感染します。最大80%の女性が生涯のうち一度はHPVに感染するといわれていますが、その多くは自然に消失し、一部の持続感染を起こした例で細胞の異型を引き起こし、数年から数十年かけて発癌に至ることがわかっています (まとめ1)。

まとめ1

HPV感染のリスク

- ・ HPVは非常にありふれたウイルスである
- ・ 性交相手1人のみの女性における子宮頸部HPV感染の累積リスクは46%である (初交の3年後)
- ・ 発癌性HPV感染のリスクは初交後も高く、そのリスクは性活動がある限り女性の生涯を通して持続する
- ・ 米国におけるHPV感染の総有病率は27%である
- ・ 最大80%の女性が生涯のうち一度はHPVに感染しほとんどの感染は消失するが、高齢では消失しにくい

- | | |
|------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------|
| 1. Collins S, et al. <i>Br J Obstet Gynaecol</i> 2002;109:96-98; | 5. Brown DR, et al. <i>J Infect Dis</i> 2005;191:182-192; |
| 2. Schiffman M, et al. <i>J Natl Cancer Inst</i> 2003;31:14-19; | 6. Koutsky L, et al. <i>Am J Med</i> 1997;102:3-8; |
| 3. Sellors JW, et al. <i>CMAJ</i> 2003;168:421-425; | 7. Bosch FX, et al. <i>J Natl Cancer Inst Monogr</i> 2003;31:3-13; |
| 4. Dunne EF, et al. <i>JAMA</i> 2007;297:813-819; | 8. Castle PE, et al. <i>J Infect Dis</i> 2005;19:1808-1816. |

現在最も大きな問題は、HPV感染が若年層で増加していることで、そのために年代ごとの子宮頸がん発症率のピークが30歳代前半までシフトしたと考えられます。そこで、このHPV感染を阻止するためのワクチンが開発されました。ワクチンは、HPV16/18それぞれの抗原成分とアジュバントとを含み、1回0.5mlを3回 (初回、1ヵ月後、6ヵ月後)、上腕三角筋部に筋肉内注射します。副作用としては、注射部の疼痛・発赤・腫脹などが多くみられますが重篤な副作用はほとんどありません。

ワクチン接種により体内に作られた抗体は中和抗体としてHPV16/18の新たな感染を防ぐことができ、その抗体価は20年以上続くといわれています。したがって、HPVがまだ感染していない

初交前に接種するのが効率的であると考えられ、一般的な接種対象は10歳以上の女性とされています。

ワクチンは自由診療ですので、保険の適応にはならず、1回の接種にかかる費用は15000円前後といわれています。最近では、女子中学生に対してのワクチン接種を公費負担で行う自治体もでてきており、助成制度のさらなる充実が強く望まれるところです。

このワクチンで子宮頸がんのリスクを大幅に低下させることができますが、100%の予防ではありません。ですから、定期的に検診を受けることも大変重要なことです。ワクチン接種と検診を組み合わせるにより、子宮頸がんによる死亡は大幅に減らすことができるものと期待されます(まとめ2)。

まとめ2

ワクチンのまとめ

- 1) 接種対象者は、10歳以上の女子
- 2) 接種回数は3回(0, 1, 6ヶ月)
- 3) 接種費用—現時点 自費診療(約5万円)
- 4) 接種有効性—20年以上
- 5) ワクチンを接種しても全例の頸がん予防にはならない
- 6) 子宮頸がん検診を併せて行うことが必要

女性医師部会の研修会として、多くの女性の生命に関わる子宮頸がんの画期的な予防法に関して勉強できたことは、大変有意義であったと思います。女性医師であれば婦人科を標榜していなくても患者様から相談を受ける機会も多いと思われるので、今回ご教示いただいたワクチンに関する情報を多くの方に正しく伝えて、ワクチン接種がさらに広まるよう、努力していきたいと思います。

